

「暗やみの中の光、新年における希望と期待」

2023年になりました。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。今年もどうぞよろしく願いいたします。皆さんにとって2022年はどんな一年だったでしょうか。また2023年はどのようなことを神様に願い、期待しておられるでしょうか。今月のタイトルの前半だけを見ると、クリスマスにふさわしいタイトル、少し時期遅れのタイトルのように思われますが、後半とのつながりがあります。



12月のクリスマスの諸行事が終わったあとに、家族でレオマワールドのイルミネーションを見に行くことができました。教会でも12月はイルミネーションをつけていましたが、いろいろなところでイルミネーションがきれいに輝いていました。罪にまみれた暗やみの世界に救い主としてお生まれになられた神の御子イエスのご降誕の事実は12月だけでなく、いつでも心に留めておきたいものです。というのはご降誕があって、その後の十字架の死と復活があるからです。

「信仰を持つ」ということ、「イエス・キリストを信じるということは果たしてどういうことなのか」ということをじっくりと考えることも大切です。何か自分に御利益があることを期待して、イエス・キリストを信じる人はほとんどいません。むしろこれまでの人生のさまざまなことで行き詰まりを経験したり、人間関係に悩んだり、今の人生とこれからの人生に対する不安から、あるいは病や苦しみを通して信仰へと導かれる方々もおられます。救い主を信じたからといって、即座に悩みや問題がすべて解決するわけではなく、信仰生活を送っていても、長いしかも暗いトンネルの中にあるような経験をする方も多くおられます。

しかしどんな苦しみや悲しみの中にあっても、またあらゆる状況の中でも生けるまことの神様が共におられるという約束、イエス・キリストが「インマヌエル」(神が共におられる)と呼ばれるお方であるという事実は変わることがありません。しかも共におられるだけでなく、信じる者に対して積極的に生きて働かれておられる神様です。イザヤ63章9節には「彼らが苦しむときには、いつも主も苦しみ、主の臨在の御使いが彼らを救った。その愛とあわれみによって、主は彼らを贖い、昔からずっと彼らを背負い、担ってくださった。」とあります。

「彼ら」とは、直接的にはイスラエルの民ことです。主とは神様のことを指しています。神様はご自身の愛とあわれみによって、彼らを贖い、解放し、神のものとしてくださり、ずっと彼らを背負い、担って下さいました。それは同じイザヤ書の46章4節の神様の語りかけのことは「あなたがたが年をとっても、わたしは同じようにする。あなたがたが白髪になっても、わたしは背負う。わたしはそうしてきたのだ。わたしは運ぶ。背負って救い出す。」にも通じます。

神様はご自身の愛とあわれみによって、信じる者たちを背負い、担い、救い出してくださるお方です。暗やみを照らす光であられるキリストは究極的には十字架において、苦難と苦悩を私たちのために経験されました。十字架にこそ大きな犠牲が支払われていること心に留めたいのです。信じてからも、別の意味で暗やみとも思える中に今、自分が置かれていると感じることがあっても、「主は私の光 私の救い。だれをわたしは恐れよう。」(詩篇27篇1節前半)という詩篇の作者のように、神様こそが私の光であられ、私の救いとなっていてくださいます。また聖書のことはが私たちの「足のともしび」であり、「私の道の光」となって(詩篇119篇105節)、私たちの行くべき道を示してくれるのです。

新しい年、皆さんはどんな計画を立てられたでしょうか。またどんな希望と期待を抱いておられるでしょうか。今年どのような一年になるかはだれにも分かりません。すべてをご存知であられ、すべてを支配し、愛とあわれみをもって導いてくださる生けるまことの神様に信頼し、神様の約束のことはを信じて歩ませていただきます。

またこの牧師感話を手にし、今、お読みになっておられる方々が、教会での礼拝や集会に出席されることを通して、「神のことは」である聖書に親しむ年、また神様の愛とあわれみを深く知る年としていただきたいと願っています。新年における神様の祝福と恵みが豊かにありますようにお祈りいたします。